

第51回全国トラックドライバー・コンテスト

千葉県代表の渡邊圭子さん(株日立物流首都圏)が「トラガール日本一」に!

今年10月26日・27日に開催された「第51回全国トラックドライバー・コンテスト」(主催・全日本トラック協会)で、千葉県代表として出場した渡邊圭子さん(株日立物流首都圏)が女性部門優勝を果たした。そこで、今回は「会社訪問特別編」として、渡邊さんにインタビュー。「トラガール日本一」に輝いた渡邊さんの喜びの声をお届けする。



ドラコン初出場で全国大会女性部門優勝を成し遂げた渡邊さん。2人の子どもの育てる母親として、仕事にも家庭にも全力投球の日々を送る

■ドラコン初挑戦で栄冠に輝いた渡邊さん 「安全運転」第一にさらなる飛躍を目指す

渡邊圭子さんは、(株)日立物流首都圏に6年前に入社した。渡邊さんは同社に入社する前からトラックを運転する機会があり、15年ほど前には大型免許を取得している。なかでも、マニュアル車を運転することに喜びを感じていたという。また、荷役作業などで体を動かすことも好きだといい、「大変なこともありますが、トラックドライバーの仕事は私にとっては天職だと感じています」(渡邊さん)と、ドライバーという仕事の魅力について語っている。

ところで、渡邊さんが「トラックドライバー・コンテスト」に挑戦したのは、実は今回が初めてだという。会社の同僚から「千葉県トラックドライバー・コンテスト」の話聞き、「一緒に出場してみない?」と誘われたことから、参加に踏み切った。

県大会は、6月28日に学科競技(筆記試験)、続いて7月6日に実科競技(運転技能・整備点検)というスケジュールで開催された。県大会への出場にあたり、渡邊さんは道路交通法や車両の構造機能、運転常識などの筆記試験対策を進めるとともに、会社の運行管理者などに整備点検や運転などを見てもらった。

「私には高校2年生と小学校6年生の2人の子供がいます。大会に出場するにあたっては、朝早起きして子どもたちのために弁当を作り、洗濯をし、仕事に行って、帰宅後家事を終えてから勉強するという生活を送りました。家庭との両立は本当に大変で、寝不足になるほどでした。また、

筆記試験に向けての勉強では『車両の構造機能』に苦手意識があり、覚える範囲も広がったため、何度も挫けそうになりました」(同)

しかし、そんな渡邊さんを支えたのは、周りの同僚からの「渡邊さんなら、きっとできるよ」という励ましの声だったという。

「同僚の方々は、苦勞していた私に対して、温かく応援して下さいました。また、私は『負けず嫌い』という性格の持ち主でもあることから、『どうにかして皆さんの期待に応えたい』と、大会に向けて一生懸命がんばりました」(同)

県大会では、女性ドライバーの参加は渡邊さんだけだったが、渡邊さんは、11トン部門にエントリーした男性選手たちに混じって奮闘。見事11トン部門の準優勝に輝くとともに、女性部門特別賞も獲得し、全国大会への進出を決めた。

「初の大会参加で勝手が分からず、ただただ必死に競技しました」と、渡邊さんは県大会を振り返っている。

全国大会への進出を決めた渡邊さんは、日立物流グループから出場する他の選手たちとともに、松戸市内の研修所



渡邊 圭子さん



全国大会で実科競技中（点検整備）の渡邊さん。合宿などを通じてスキルを高めた甲斐もあり、的確に車両の点検を行っていた



点呼を受ける渡邊さん。ドライバーの体調管理の観点から、乗務前には体温計で体温を測定している



「安全第一」が信条の渡邊さん。ハンドルを握る時は慎重な運転操作を心がけるようにしている

での合宿に参加。日常業務もこなしながら1か月半にわたって研鑽を重ね、全国大会当日を迎えた。

10月26日・27日に、自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）で開催された全国大会で、渡邊さんの実科競技の様子を見ていた北澤範之千葉北営業所所長は、「渡邊さんは日頃から度胸が据わっており、競技にも集中して取り組んでいるように見えた」と、全国大会での様子を語っている。しかし渡邊さんは、地区大会を勝ち抜いてきた精鋭ドライバーが高度な運転技能と専門的な知識を競い合う全国大会独特の張りつめた空気感に圧倒され、課題走行で本来走行すべきルート間違ってしまった。競技を終えた渡邊さんは、「緊張のあまり道を間違えてしまったので、きっと優勝の可能性はないだろう」と感じたという。

10月28日に開催された全国大会の表彰式で、女性部門優勝者として自分の名前が呼ばれた瞬間、渡邊さんはとても驚いたという。一方で、渡邊さんの奮闘ぶりを見届けてきた北澤所長は、「これまでの渡邊さんの様子を見てきた者としては、『もしかすると優勝するかも』と秘かに期待していた部分もありました」と語っている。そして、会社の同僚や家族たちも、渡邊さんの全国大会女性部門優勝という大きな成果に対して、非常に喜んでくれたという。

なお、今大会で日立物流グループは、4トン部門で大原晃選手（㈱日立物流西日本）が最高賞となる内閣総理大臣賞を受賞したほか、渡邊さんを含めた9人の選手が上位入

賞となる好成績を収めている。

ところで、渡邊さんは現在、小売店で使用するレジ袋や洗剤などといった資材を配送する仕事をしているほか、最近では産業廃棄物の輸送も行っているという。渡邊さんは日頃から「安全運転」を第一に、車間距離や右左折時の巻き込みなどに注意しながら乗務するように心がけている。また、千葉県が推奨している「ゼブラ・ストップ」も常に意識し、歩行者がいるときには必ず横断歩道手前で車を停止させるようにしている。

渡邊さんは、仕事によって3・4・10トン車やハイエースといった様々な大きさの車両に乗務している。そのため、特に車両によって変化する車体感覚に特に気を付けながら運転するようにしているという。

「いつも同じ車に乗っていると、車体感覚に慣れてしまうため、漫然運転の原因にもなってしまいます。車両特性を考慮した運転を心がけることで、漫然運転防止にも繋がってくると思います」（同）

さて、全国大会での女性部門優勝を機に、渡邊さんはよりレベルの高い安全意識を心がけるようになった。

「女性トラックドライバーとして活躍されている方も増えてきています。こうした皆さんにもドライバー・コンテストに積極的に参加していただき、安全意識をより高めていただきたいです。今後は『トラガール日本一』の名に恥じないよう、さらなる高いレベルでの安全運転に努めていきたいと考えています」（同）

「安全への取り組み」を管理者に聞く

新運行管理システム「SSCV」を導入 安全性のさらなる向上を図る

当営業所では、デジタルタコグラフに運行管理解析システムを導入しています。急制動などの情報が運行日報に記録として残るため、確認された段階で当該乗務員に対して指導を行っています。また、ドライブレコーダで記録した画像データも管理者が確認し、ヒヤリハット事例があった際には毎月の教育を通じて共有化しています。

また、日頃から安全への意識を高めてもらうために、乗務前にはそれぞれのドライバーが毎日「安全行動目標」を定め、一日の乗務の中で目標を守ってもらうようにしています。

日立物流グループでは、運転前・運転中のドライバーの体調変化を様々な機器を通じて事前に感知するとともに、ドライバーに注意を促すことで追突事故やヒヤリハットの撲滅を図ることを目指し、現在スマート運行管理システム「SSCV」の導入を進めています。現在、体温測定によってドライバーの体調管理を実施しておりますが、SSCV導入により、血中酸素濃度計、血圧計、自律神経計による測定も行い、より精度の高い体調管理の実現に繋がっていきます。

今後、同システムを活用し、安全性のさらなる向上を図っていきたいと考えております。



㈱日立物流首都圏 第二事業部 流通営業部
千葉北営業所 北澤 範之 所長

企業プロフィール

株式会社日立物流首都圏

代表取締役社長 前川 英利
千葉県柏市末広町 7-3
柏第一生命ビルディング 3階
従業員（パート・派遣社員含む）3576人（ドライバー177人）
台数 186台